

「20世紀最大の人身売買」「慰安婦は性奴隷」ほのの酷い記述

米国の高校で始まる「慰安婦授業」で日本はここまで貶められる

著者：タカハタ トオ

高濱賛

TAKAHATA Taro

日韓合意後、海外では韓国ロビーによる「反日活動」が勢いを増している。米国の最新動向を高濱賛氏が報告する。

*

左に掲げた英文は、米カリフォルニア州公立高校で2017年に改訂される「歴史・社会科学」の教育カリキュラム素案（*1）に記載された、日本軍慰安婦に関する記述だ。カリフォルニア州といえは、アメリカでは一、二を争う、教育先進州*。そこでなぜ、「日本（の）慰安婦は性奴隷だ」「20世紀最大の人身売買」数十万人の婦女子が慰安婦に連行された」などの記述がまかり通っているのか。このままだと、誤った記述が2年後には教科書に盛り込まれることになる。

背景には、米国内での慰安婦像設置運動で米世論を煽り立てた、在米韓国人ロビー活動家たちの存在がある。リーダーはフィリス・キム

同州教育局の公開記録によると、キムは一般意見として「慰安婦授業」の実施に際し、①下院決議121号などの慰安婦関連資料を地域や学校の図書館で閲覧できるようにする、②元慰安婦を招いて話を聞かせ、慰安婦のドキュメンタリー映画を見せる、③慰安婦像・碑の設置運動を続けるKAFCCのようなグループを招いて意見を聞く――などとアドバイスしている。

さらにKAFCCのホームページでは、州教育局への陳情を呼びかけ、次のような文面の署名フォーマットを公開。「私は、現在改訂作業が進められている10年生用（日本の高校生に相当）の歴史教科書に「慰安婦」を付け加えることを支持します。40万人の女性と児童が被害にあったという事実を照らし、そして今なお日本政府がこの問題で全責任を受け入れることを要求している元慰安婦生存者がいるという現実に鑑み、カリフォルニア州教育局が人類の歴史にとつて重要な慰安婦問題を私たちの歴史教科書に書き加えることを要請致します」

「客観的事実に基づく正しい歴史認識が形成されるよう、日本の基本的立場や取組について、これまで以上に対外発信を強化していく方針」との回答があった。

日本政府が真剣に対応しない限り、慰安婦問題にとつて決定的出来事だった「クマラスワミ報告（96年）」、「米下院121号決議」（07年）と同じ外交上の失敗（*2）を繰り返すことになる。今回のカリフォルニア州公立高校教科書問題はこれらに匹敵する一大事のはずである。外交官が動かないなら、国会議員が現在会期中の国会で問題提起すべきではないだろうか。

「私には、現在改訂作業が進められている10年生用（日本の高校生に相当）の歴史教科書に「慰安婦」を付け加えることを支持します。40万人の女性と児童が被害にあったという事実を照らし、そして今なお日本政府がこの問題で全責任を受け入れることを要求している元慰安婦生存者がいるという現実に鑑み、カリフォルニア州教育局が人類の歴史にとつて重要な慰安婦問題を私たちの歴史教科書に書き加えることを要請致します」

*1 カリフォルニア州教育局が15年春から一般公開し、現在も意見公募中。同局は16年5月をめぐりに公聴会を開いて最終案をまとめ、教科書出版各社に提示する。出版社はこれを参考に執筆、編集、出版する。

これが「慰安婦授業」カリキュラムだ！

「Comfort Women, a euphemism for sexual slaves, were taken by the Japanese Army in occupied territories before and during the war. 性奴隷の婉曲的表現である「慰安婦」は第二次大戦中あるいはその前に日本軍が占領した地域に連れて来られた。

「Comfort Women」 can be taught as an example of institutionalized sexual slavery, and one of the largest cases of human trafficking in the twentieth century;

「慰安婦」は制度化された性奴隷の実例として、また20世紀における最も規模の大きい人身売買の好例として教えることができる。

estimates on the total number of comfort women vary, but most argue that hundreds of thousands of women were forced into these situations during Japanese occupation.

慰安婦全体の数の推定は様々だが、多くのものは数十万人の女性が日本軍占領期間中、こうした施設に無理やりに入れられたと指摘している。

慰安婦すなわち「日本軍が連れてきた性奴隷」ではない。これまでの調査で日本軍による強制連行の事実は確認されていない。中には悪質業者に騙されて慰安婦となった女性もいたが、大多数は自らの意思で働いていた女性とみられる。彼女たちが常に監視され性交渉を強要されていたわけではなく、慰安所では給料が支払われ、外出や廃業、帰国の自由もあった。また、「数十万人」という数についても根拠がない。

日本政府は外交上の失敗を繰り返すのか

日本政府や現地日本人はどう対応しているのか。

日本政府が真剣に対応しない限り、慰安婦問題にとつて決定的出来事だった「クマラスワミ報告（96年）」、「米下院121号決議」（07年）と同じ外交上の失敗（*2）を繰り返すことになる。今回のカリフォルニア州公立高校教科書問題はこれらに匹敵する一大事のはずである。外交官が動かないなら、国会議員が現在会期中の国会で問題提起すべきではないだろうか。

*2 日本政府は96年に国連人権委員会(当時)に提出された「クマラスワミ報告」への反論文書を提出したがすぐに撤回。07年の米下院決議では事態を静観した。いずれのケースも、「慰安婦=強制連行された性奴隷」という誤った認識が世界に広まる要因となった。